



多目的交流施設 展示室3

おいでよ！文化財展示室



多目的交流施設 展示室2

問合せ 生涯学習課 文化財担当
 ☎0274-52-2586
 FAX0274-52-2587

表紙の答え➡「注口土器(ちゅうこうどき)」

職員のオススメ展示品

どせいみみかざり
 ●土製耳飾

…縄文人はおしゃれだった!?



この土製耳飾は、大字下阿久原にある平遺跡から出土した縄文時代の耳飾です。この耳飾は、耳たぶに穴をあけ、はめ込んで使っていたと考えられます。よく観察してみると、細かい文様が施されていてとてもおしゃれです。

縄文時代には平遺跡の耳飾のように丁寧に作られているものもあれば、文様が何も施されていないシンプルな耳飾もあります。

もしかすると縄文人は、おしゃれな耳飾とシンプルな耳飾を使い分けていたのではないのでしょうか。



職員のオススメ展示品

ざく
 ●手回し座繰り機

…養蚕を知ってほしい!



まゆ繭から生糸を引き出して巻き取る養蚕に用いる道具です。生糸を繭から引き出す作業を糸引きといい、座って使うことから「座繰り」と呼ばれています。この座繰り機は、「上州」今の群馬県で開発されたことから「上州座繰り」と呼ばれていて、数個の歯車をかみ合わせることで巻き取るスピードを速くすることができ、作業の効率化を図ることができました。

かつて町で盛んに行われていた養蚕ですが、現在では見られなくなっていました。多目的交流施設では、神川の養蚕をみなさんに知っていただくため、養蚕農家の方から寄贈された道具を展示しています。



表紙になっているのは、「注口土器」という今から約4000年前の縄文時代に作られた土器です。私たちが普段使っている急須と思われた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

答えを聞いて「縄文人ってすごい!」と思われた方、これから紹介する文化財展示室を訪ねてみてください。遙か昔の神川の地に住んでいた人々の生活を知ることができます。注口土器よりもさらに気になるものが見つかるかもしれません。



注口土器

【注口土器とは?】

注ぎ口のある、液体を注ぐために作られた土器です。日常的に使用されていたというよりも、お祭りなどの非日常的な場面で使用されたと考えられます。

注口土器にも様々な形があり、表紙になっているものは取っ手まで付いていて現代の急須と見間違ふほどです。取っ手まできちんと残っているものは少なく、とても珍しいものです。

●多目的交流施設内文化財展示室(大字下阿久原1088)

展示室の様子が動画で観られます

【利用時間】午前9時～午後5時

【休館日】年末年始(※その他臨時に休館する場合は) 【入館料】無料

【展示内容】

多目的交流施設の文化財展示室2では神泉地区から出土した縄文時代から古代までの土器などを展示しています。展示室3では養蚕や畑作に使用していた民具を展示しています。また、年2回テーマを決めて企画展示を開催しています。

